

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	笹月桃子	職名	准教授	学位	医学博士
----	------	----	-----	----	------

研究分野	研究内容のキーワード
小児緩和ケア 小児の生命倫理・臨床倫理 医療プロフェッショナルリズム・医学教育	小児、生命、倫理、緩和ケア、代理意思決定

研究課題
1. 「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナル アイデンティティ形成に関する調査研究」 2. 「重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討」 3. 「協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究」

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護形態機能学 I・II ● 疾病学各論：小児科 ● 遺伝看護学 ● 緩和・終末期看護：小児緩和ケア ● 初年次セミナー I・II ● 看護のための臨床検査

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 看護形態機能学 】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【 疾病学各論：小児科 】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【 遺伝看護学 】 外部講師 2 名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。
授業科目名【 緩和・終末期看護学：小児緩和ケア 】 子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。
- ② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。
- ③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設（医療機関）から実習指導者を招き講演をしていただいた。
- ④ 科目の評価視点は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。
- ⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。
- ⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

初年次セミナーII

- ① 初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。
- ② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。
- ③ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。
- ④ 評価は、DP にそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。
- ⑤ 本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次I同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員2名～3名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】

検尿、血液型検査、など、結果をその場で即判断できる臨床検査を実際に体験する場を設け、臨床検査の意義と同時に、看護師として果たせる役割、検体の扱いの注意点など学習する機会とした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会 日本小児神経学会	日本小児科学会専門医 ・第58-61回日本小児神経学会学術大会 実践教育セミナー企画責任者 ・第59-62回日本小児神経学会学術大会 実践教育セミナー及びシンポジウム企画責任者	
日本重症心身障害学会 日本小児血液・ガン学会	・緩和ケア等事業委員会委員 ・「小児科医のための緩和ケア教育プログラムCLIC」ファシリテーター	

日本緩和医療学会 日本生命倫理学会 日本臨床倫理学会	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員 ・第 28 回日本生命倫理学会年次大会 プログラム委員 ・第 30-31 回シンポジウム企画者 ・臨床倫理認定士 	
--------------------------------------	---	--

2019 年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 重篤な先天性心疾患を 抱える子どもの治療 と ケアに関する倫理的論 点 特集 先天性心疾患の 子ども・家族への看護 “いのち”と“生活”を 支えるために ケアのポ イントと実践	単著	2019	小児看護 42(7), 852-8 へるす出版	
(学術論文) Decision-making dilemmas of paediatricians: a qualitative study in Japan	共著	2019 Aug	BMJ Open. 19;9(8):e026579	Sasazuki M, Sakai Y, Kira R, Toda N, Ichimiya Y, Akamine S, Torio M, Ishizaki Y, Sanefuji M, Narama M, Itai K, Hara T, Takada H, Kizawa Y, Ohga S:
(翻訳)				
(学会発表) 小児緩和ケア総論～そ の理念と実践～ 実践教育セミナー3「重 篤な神経疾患を抱える 子どもたちのための小 児緩和ケア」 呼吸器症状に対する医 療介入における倫理的 な論点 シンポジウム 18「重篤な 神経疾患を抱えるこど もの緩和ケア～呼吸障 害にまつわる方針決定 と症状緩和について～」		2019. 5. 30 2019. 6. 1	第 60 回日本小児神 経学会学術集会、名古 屋 第 60 回日本小児神 経学会学術集会、名古 屋	

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
意向表出ができない子どもの代理意思決定支援		2019. 7. 14-15	小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会、東京	
「小児緩和ケア」の役割と可能性		2019. 10. 26	こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム、福岡	
いのちについて考える～小児医療現場から～		2019. 11. 2	修猷館高等学校 出前授業、福岡	
意思の表出が困難な人たちの意思決定と医療選択～共に見出す～		2019. 11. 9	2019年度びわこ学園医療福祉センター草津 第二回公開講座、滋賀	
代理意思決定の可能性を探る シンポジウムⅢ「小児医療現場より問う：代理意思決定を再考し、その可能性を探る」		2019. 12. 7	第31回日本生命倫理学会年次大会、仙台	
心臓病の子どもたちのいのちをめぐる対話～代理意思決定の可能性～		2019. 12. 14	第6回 初心者のための小児循環器セミナー、名古屋	
腹痛「お腹が痛い」と言われたら		2020. 1. 22	北九州養護教諭のための勉強会、北九州	
子どものいのちをめぐる対話 ～代理意思決定における医療者の役割～		2020. 1. 26	日本小児救急医学会第10回脳死判定セミナー 教育講演、北九州	
子どものいのちを巡る対話 ～代理意思決定の可能性～		2020. 2. 14	あいち小児家族支援委員会・臓器提供WG 共催研修会（あいち小児保健医療総合センター）、名古屋	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
「重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーマンスアーツを活用した支援の検討」	本学共同研究 日	2,009,000	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

倫理審査委員 研究推進委員
